

きずな(絆) No.10

発行:全日本民医連 震災対策本部

★★関連情報・重要なおしらせを全日本民医連 H.P に掲載しています。活用してください。

全国の仲間て被災者のもとへ！民医連綱領の実践を

■「懸命でリアルな支援活動の報告に広がる確信」大阪・淀協

3月11日(金)に東日本に大地震と津波による大被害に加え、今は原子力発電所の爆発による高濃度の放射線漏れは、見えない不安が被災地に広がっています。地震発生後すぐに支援活動を展開し、第一次支援隊と、第二次支援隊の一部が帰阪し、緊急の支援報告会を開催。108名が参加し熱心に聞き入りました。支援報告は、一人目の医師から病院や避難所で診療した経験をリアルに報告。全体に來られる患者さんは体が冷たく低体温気味、やはり真冬並みの気候が避難者に追い打ちをかけています。二人目の医師からは、診察する中で、家が流されてせん妄状態の方や、リストカットを繰り返す方の状況と共に、自分の職場がこういった支援活動を熱心にやる職場であることに確信を持ち、送り出すために支えてくれた職場への感謝が述べられました。総看護師長からは、助かっても、亡くなった家族を思うと罪悪感にとられる方を見るにつけ、こちらまで心を痛めてしまう現状が報告されました。副事務長からは、写真をもとに現地の様子に感想も言葉もなくし、最後は写真も撮るのをやめてしまったと報告がありました。部長・書記長からは、車で片道16時間かけて11県を通り現地に着くまでの様子も伝えられ、途中原発で足止めさせられたこと不安と怒りも語られました。支援活動は、長期戦です。支援に行く方も職場で支える方も、心一つにして支援活動を展開していきましょう！！(大阪・淀協「東日本地震対策本部ニュース No.6」3/19より)



■「第1次支援の様子が朝日新聞(3月17日)に掲載」奈良民医連

大和高田市の医療法人健全会土庫病院は、下林孝好医師ら8人の医療支援チームを送り、13日から宮城県塩釜市の坂総合病院を拠点に活動している。支援チームは医師2人、看護師2人、薬剤師1人、事務職員3人。12日午後、支援物資の医薬品を救急車とワゴン車に載せて出発。途中、福島第一原発で放射能漏れの危険が生じていることからヨウ素剤を届けるなどし、坂総合病院に到着したのは13日になった。

同病院は、塩釜市など2市3町と仙台市東部を医療圏とした地域医療の中核病院。塩釜市でコンビナート火災が起きるなど、大きな被害が出ている地域だけに医師不足が深刻で、到着した夜から泊まり勤務に入ったという。

健全会の渡辺則之事務局長は「治療は災害が発生して1〜3日の初動が決定的に重要で、何とか間に合った。苦労は多いが、役に立ててうれしい」と話した。県立三室病院(三郷町)の医師ら7人は13日から、岩手県久慈市の避難所で救護活動をしている。

(奈良民医連「東日本大震災ニュース No.7」3/16より)

<おしらせ>

- 支援ニュースや新聞掲載記事(全国紙も東京本社版では掲載されません)など、info@min-iren.gr.jp(全日本民医連代表アドレス)に、集中してください。
- 全日本民医連HPで関連情報・動画を掲載。活用し職場での意思統一、学習会を積極的に開催しましょう。